

大淀医師会 大阪回生病院学術講演会にて

「高齢者の排尿障害について」

大阪回生病院 泌尿器科部長 上甲政徳

このところ平均寿命が延び続け、ますます高齢化が進んでおります。それに伴い排尿障害を訴える患者様も増えてきています。治療を考える上でも患者の平均余命を考慮して治療法を変更する必要があります。たとえば、今までは手術の対象とならなかった 75 歳以上の前立腺癌の患者も手術適応になってきております。

ところで解剖学上、前立腺の有無という大きな違いが男女の間にあり、男性では排尿時の障害が、女性では蓄尿時の障害つまり尿失禁が多く見られます。

男性の排尿障害をきたす疾患の代表は**前立腺肥大症**ですが、前立腺肥大症の診断は問診、直腸診、尿流量測定、残尿測定、超音波、国際前立腺症状スコア（IPSS）などによります。癌を否定するために PSA の測定も必須です。治療はアルファブロッカー、植物製剤、漢方薬、コリン作動薬、手術などです。アルファブロッカーも前立腺に選択性の高いものがあり投薬でコントロールできることが多くなり、手術は減少しています。開業医の先生には排尿障害でこられた患者様にアルファブロッカーをとりあえず処方していただき、PSA を測定していただき、PSA が高値や排尿障害の改善がない場合に泌尿器科を紹介していただくのがよいと考えます。

前立腺癌は症状が出てからでは進行していることが多く、血清 PSA の測定が重要です。当科では受診された 50 歳以上の患者には、必ず PSA を測定するようにしています。治療は早期癌では 80 歳未満では手術を、80 歳以上や進行癌では抗男性ホルモン療法が主体です。最近では小さな放射線の線源を前立腺に植え込む小線源療法も一部の施設で施行されています。

女性の尿失禁については最も多いのが骨盤底筋肉群の緊張低下による**腹圧性尿失禁**で、この治療には骨盤底筋体操や手術が治療の主体です。切迫性尿失禁には抗コリン剤による薬物療法が中心です。尿失禁や頻尿のタイプわけの際に患者に**排尿日誌**（frequency-volume chart:FVC）をつけて貰うことが有用です。

最初に述べたように様々な要因からくる排尿障害において、患者様の平均余命を考えて個々に治療法を変えていくことが必要であると考えます。開業医の先生方が抱えておられる症例で気になることがあればいつでも当科にご紹介、ご相談ください。

最後に、このたびの学術講演会にご協力いただきました大淀医師会と第一製薬さまに御礼申し上げます。また医師会の先生方におかれましては、大勢お集まりいただきありがとうございました。



着任の挨拶

くすもとまさひろ  
**楠本正博 医師**

< 外科 医長 >



平成 4 年九州大学医学部卒業後、同第一外科へ入局。  
平成 7 年より 2 年間大阪回生病院に勤務、平成 9 年より  
九州大学医学系大学院、平成 12 年米国カンザス大学留  
学、その後、下関市立中央病院、福岡県立嘉穂病院を  
経て、本年 4 月より再び大阪回生病院に勤務しております。

< 有資格 >

日本外科学会認定医

< 専門 >

消化器外科・血管外科・乳腺外科・呼吸器外科

< 外来担当日 火（午後）・水（午前・午後） >

かとう てい  
**加東 定 医師**

< 整形外科医長 >



平成 3 年神戸大学医学部卒業後、同整形外科へ入局、  
関連病院数箇所のレジデント勤務を修了。三木市民病院  
整形外科医長、神戸労災病院整形外科医長を経て、本年  
4 月より大阪回生病院に勤務しております。

< 有資格 >

日本整形外科学会専門医

日本整形外科学会認定脊椎脊髄医

< 専門 >

「四肢骨折を主とした外傷」「関節疾患」「脊椎疾患」  
などの診断・治療

< 外来担当日 月（午後）・金（午前・午後） >

ごとうもとひろ  
**後藤基宏 医師**

< 口腔外科医師 >



平成 9 年大阪歯科大学を卒業後、同大学口腔外科第 2  
講座へ入局、平成 13 年同大学院卒業後、同大学病院を  
経て、本年 4 月より大阪回生病院に勤務しております。

< 専門 >

口腔外科疾患全般・顎関節疾患

大学病院勤務時より口腔外科顎関節外来にて顎関節症  
を中心とした治療に取り組んでおりました。また当科は  
睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療に携わってきた実績  
がありますので、院内睡眠医療センターとさらに連携を  
深め、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

< 外来担当日 月・火・木（午前・午後） >

くろおさだひろ  
**黒岡定浩 医師**

< 皮膚科医師 >

平成 10 年関西医科大学卒業後、同大学形成外科入局、  
洛和会音羽病院、岸和田市民病院を経て平成 16 年大阪  
市大皮膚科へ入局、済生会富田林病院を経て、本年 5 月  
より大阪回生病院に勤務しております。

< 専門 >

形成外科としての勤務歴が長く、皮膚外科・皮膚再建  
外科を積極的に取り組んでいきたいと考えております。  
ご指導の程よろしくお願ひします。

< 外来担当日 火（午前）・水（午後）・金（午後） >

こ が たかあき  
**古賀敬章 医師**

< 整形外科医師 >



平成 15 年山口大学医学部卒業後、神戸大学整形外科  
入局、同大学病院、六甲病院を経て、本年 6 月より大  
阪回生病院に勤務しております。

< 専門 >

一般整形外科、および外傷

< 外来担当日 火（午前・午後）・水（午後） >

### 院是（理念）

我回生病院は之を永遠に維持し人類の疾患を救療し一視同仁博愛慈善をもって院是とす。

### 基本方針

1. 高度な最新の医療をやさしく安全に提供します
2. 病者の人間性を大事にし、さらにその主体性を尊重し、発揮できる医療を提供します
3. 地域の中で求められている医療を提供します
4. 病院職員全員がチームとなり、その能力を十分に生かしあう医療を提供します

平成 17 年 6 月 1 日から「**大阪市小児ぜん息等医療費助成制度**」が変わりました！

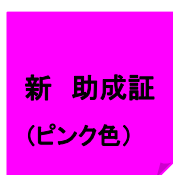
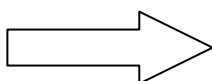
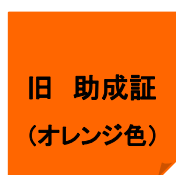
＜改正内容＞（一部自己負担額が必要となります）

対象疾患の治療に要した医療費のうち、自己負担すべき額に相当する額または自己負担した額（入院時における食事療養費の標準負担額を含む）を助成していましたが、1 医療機関ごとに、入・通院各 1 日あたり 500 円以内で、**月 2 回(1000 円)を限度**に一部自己負担額の支払いをお願いすることになります。

- ☆ 月が変わるごとに、2 日を限度にご負担額が発生します。
- ☆ 同じ医療機関でも、「入院」・「通院」はそれぞれのご負担となります。（同月内 2000 円限度）
- ☆ 院外処方箋の交付により薬局を利用した際の薬代の負担はありません。
- ☆ 対象疾患以外の治療を併せて行った場合、実際のご負担額が 500 円を超えることがあります。

＜現在 助成証 をお持ちの方へ＞

現在の**大阪市小児ぜん息等医療費助成証**は記載されている有効期間にかかわらず、平成 17 年 5 月末までのご使用となります。6 月 1 日以降は新しい証となりますので、受診の際は健康保険証とあわせてご提示いただき、一部自己負担額を窓口にてお支払いください。



窓口にて新証のご提示をお願いいたします。



## 回 互惠会 大阪回生病院

病院長 菊池 幹雄  
〒531-0072  
大阪市北区豊崎 4-6-6  
TEL 06-6371-6234  
FAX 06-6371-8592

＜発行者＞ 地域医療連携室  
＜発行日＞ 平成 17 年 6 月 15 日  
＜ホームページ＞  
<http://www.kaisei-hp.co.jp/>